

また、昭和51年度において、会津・南会津、いわきの各地域のその割合は、100%を超える状況を示している。これより、進学志願者数に占める入学定員の地域間較差は縮小傾向にあるといえるので、本県においては、入学定員の地域間均衡化が進行しつつあるものと想定される（図2-4-5）。

従って、今後は、各地域の進学志願者の動態予測に基づき、公立高等学校と私立高等学校との関連を考慮しながら入学定員の適正化を更に推進する必要がある。

#### (4) 生徒数

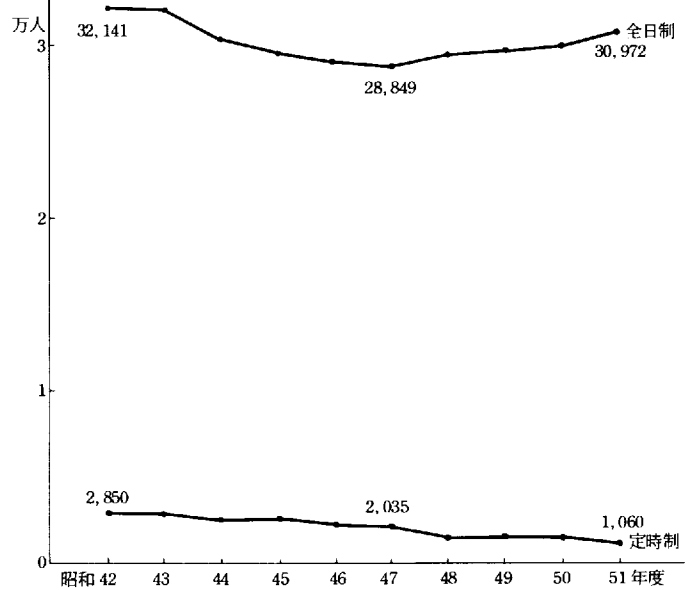
本県高等学校の生徒数は、昭和41年度に107,439人であったが、その後、減少し続け、昭和49年度に最低となり93,525人となっている。

また、それ以降においては、ほぼ横ばいの推移状況を示し、昭和51年度において93,670人となっている（図2-4-6）。

次に、学科別生徒数の状況を昭和41年度から昭和51年度までの学科別生徒占有率からみると、普通科は、昭和41年度53.02%、昭和46年度51.71%、昭和51年度58.12%とその生徒占有率が昭和46年度以降上昇傾向を示している。

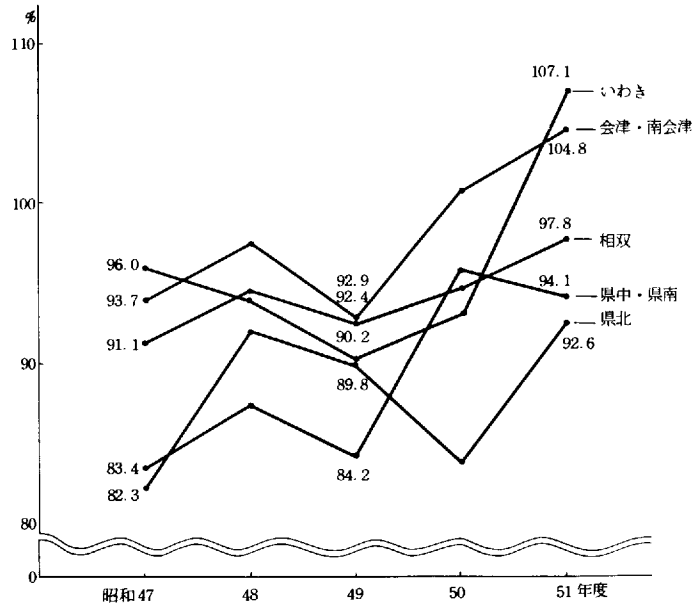
工業科の生徒占有率は、昭和41年度16.52%、昭和46年度17.93%、昭和51年度16.14%であり、商業科の生徒占有率は、昭和41年度12.85%、昭和46年度12.98%、昭和51年度12.00%で、これら両学

図2-4-4 高等学校入学定員の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭42～昭51)による。  
2. 入学定員は、公立と私立の合計である。

図2-4-5 地域別進学志願者に占める全日制高等学校の入学定員の割合



注：1. 「学校統計要覧」(昭47～昭51)、「高等学校教育課調査」(昭47～昭51)による。  
2. 地域の割合 = (地域内の公・私立全日制高等学校入学定員) ÷ (地域の進学志願者数) × 100  
3. 県中と県南及び会津と南会津は、生徒の相互通学区域となっているので、1地域として取り扱う。